

令和元年度

学校評価 総括評価表

徳島県立川島高等学校

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（１）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価			学校関係者の意見	次年度度への課題と今後の改善方策
(1) 中高一貫教育の推進	① 中高連携の促進に努め生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。 ② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○数値が下がった場合やマンネリ感がある場合には、高校生が実感できる中高一貫教育の「特色ある教育」について検討を行う必要がある。 ○中高一貫教育を生かした教育活動は、教員の英知を結集して取り組まなければならない最重要課題と捉えるべきであり、教員にマンネリ化を打破しようとする気迫が望まれる。 ○教育課程の満足度が 88 %を超えているのは中高一貫教育の魅力としてアピールできる。ただ学校生活、学習内容、進路指導、学校行事への卒業前の満足度が 80 %に満たなかったことは、改善策の構築をお願いしたい。 ○「中高一貫教育を生かした教育活動が行われている」という質問に 38.4 %の生徒があまりそう思わない、全くそう思わないの回答をしていることに驚いた。生徒の意見も聞いて中高一貫校の魅力を見つけてもらいたい。	○中高一貫教育校として 15 年が過ぎ、概ね良好な中高一貫教育ができていると考えている。しかし、取り組み自体がマンネリ化している感は否めず、これまでの教育活動に関する検証結果を十分に検討し、学習指導・進路指導・特別活動等の各領域で更なる充実をめざし、中高一貫教育の推進を図りたい。 ○学校行事や部活動等を通して中高生徒の交流ニーズの把握を図る。また、中高相互の授業見学や研究授業、中高合同の教科会の内容を充実させ授業の改善に向けて取り組んでいきたい。 ○数学の先取り学習を継続することにより、そのメリットを受ける理系への進学者を増やす。
						〈評定〉 B ----- 〈所見〉 本年度第 9 期生の卒業前に行った中高一貫教育アンケートで、川島高校での学校生活、学習内容、進路指導、学校行事に対するの満足度が 80 %に満たないとの結果が出ており、今後魅力ある中高一貫校であるための方策を考えなければならない。		
		活動計画		活動計画の実施状況		県立川島中学校の 3 年生全員が参加する 8 月の中学生体験入学や、中学 3 年生対象でそれぞれ開催した高校説明会において、川島高校への進学の魅力や利点について保護者も交えて理解を深める機会を設けた。体験入学では高校生が中学生に学習を教える機会を与え、お互いに交流しながら学び合うアクティブラーニングの成果がでた。中高接続のための数学の先取り学習を継続した。		
		① ・中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し、学校行事の内容を検討し、充実させる。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員・保護者の割合は、70 %以上をめざす。 ・「学校生活に満足している」の割合は 80 %以上をめざす。 ② ・川島高校での学習内容の満足度を 80 %以上とする。		① ・中高一貫教育推進委員会は、議案を精選し年間 5 回、中高合同の教科会を 3 回実施した。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は、「ある程度思う」を含めて 69.8 %（前年比 3.1 ポイント増）であった。比率は少し上向いているものの、二年前と比べると 1.3 ポイント及ばない。保護者は 70.7 %（前年比 5.3 ポイント減）であり、過去 3 年間の数値は横ばいである。 ・生徒の学校生活への満足度は 79.7 %で昨年より 0.2 ポイント増えている。 ② ・教育課程やクラス編成・講座編成について中高一貫教育推進委員会で来年度に向けての課題を話し合い、方向性を確認した。 ・教育課程（選択科目等）の満足度が 88.1 %で前年度よりも約 2 ポイント増えている。		〈評定〉 B ----- 〈所見〉 本年度第 9 期生の卒業前に行った中高一貫教育アンケートで、川島高校での学校生活、学習内容、進路指導、学校行事に対するの満足度が 80 %に満たないとの結果が出ており、今後魅力ある中高一貫校であるための方策を考えなければならない。 県立川島中学校の 3 年生全員が参加する 8 月の中学生体験入学や、中学 3 年生対象でそれぞれ開催した高校説明会において、川島高校への進学の魅力や利点について保護者も交えて理解を深める機会を設けた。体験入学では高校生が中学生に学習を教える機会を与え、お互いに交流しながら学び合うアクティブラーニングの成果がでた。中高接続のための数学の先取り学習を継続した。		
		① ・前年度 6 年次対象の「6 年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ、中高連携の学校行事をより充実させる。 ・川島中学校オープンスクールでの学校説明会や、県立川島中学校 3 年生対象説明会での発表内容を十分検討する。 ② ・令和 2 年度の教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会で検討し、編成する。 ・中高相互の授業見学、研究授業に対する協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、生徒が積極的に授業に参加する授業展開が出来るよう授業の工夫改善を図る。 ・来年度実施の授業展開やクラス編成の検証をする。		① ・平成31年の 1 月に 6 年次生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会で中高の学習指導、進路指導や生徒間の交流について協議した。また、本年度は、昨年度より実施の 10 月の県立川島中学校 2 年生の参観授業として「先輩に学ぶ」と題して 5 年生から高校生活の話を聞いたり、質問に答えたりといった形での取り組みや、例年行っているスペシャルアプローチ(SA)での 5 年生が 3 年生を指導する特設 SA、さらには中学生の高校部活動への参加について等、多彩な中高連携について検討した。 ② ・令和 2 年度入学生 of 教育課程については、4 月に教科会及び教育課程検討委員会、5 月に中高一貫教育推進委員会を開催して検討し、生徒のニーズにあった教育課程に変更した。 ・中高相互の授業見学や中高合同の教科会を 2 回実施し、生徒の実情や進捗状況を確認した。 ・定員の発表を受け、令和 2 年度入学生のクラス編成について、中高一貫教育推進委員会などで検討した。				

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（２）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や，朝の学習，家庭学習など自主学習の促進に努める。 ② 学力向上を図る研修の充実や，授業の創意工夫に努める。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。	評価指標		評価指標の達成度	総合評価	○目標数値の達成に満足することなく，学習した内容の定着，主体的な学習姿勢の高揚，ひいては学力の向上につなげられるよう，さらなる授業改善と授業スキルの向上に，日々奮励して欲しい。 ○授業に対する満足度等高い数値を示しているがその反面，生徒の家庭学習時間の減少が気に掛かる。担任が朝の学習ノートやスコラノートをチェックし，教科担任が宿題等をチェックする取り組みは高く評価できる。模試分析会で答案の分析を行うことは続けて欲しい。 ○朝の学習が充実したものになるように何か策を考えてもらいたい。 ○文章作成，プレゼン能力を高めるためには，読書は大切であると考ええる。	○学力向上や実践的な学力の育成には，学習者の主体的な学びの姿勢が求められる。そのためになりたい自分を描かせ，自己分析を行いつつ，目標に向けて努力する意識と学習に向かう習慣作りが大切である。時間は要するが面談を大切にし，生徒の実態に合った具体的な課題を与える必要がある。机に向かう習慣や，本や新聞に触れる機会を作ったり，基礎内容がわかる達成感を味合わせることから始めたい。 ○「朝の学習の時間」は，４・５年次生は英語・漢字検定という具体的な目標に向けて学習を進める時間として，また，一日を落ち着いて始めさせるという目的で行われている。その効果を肯定する教員は66.7％(前年比13.8ポイント減)となっており，実施方法の改善が必要である。 ○読書については，調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して，さらに推進する必要がある。 ○模試分析会をデータの過年度比較などにとどまらず，答案を各教科担任がチェックし，定着度の確認や誤答の傾向，学習法や参考書の活用法などを分析し，それらをまとめたプリントを生徒に配布したい。
					〈評定〉 B ----- 〈所見〉 三者面談や個人面談を予定どおり実施できた。肯定的意見が生徒 79.2％，保護者 88.6％となった。生徒の満足度は昨年よりも若干下がっているが，保護者の満足度が 8.8 ポイント上がっている。 生徒の授業に対する満足度は目標の 75％以上を達成できている。昨年度から電子黒板を活用した授業実践を行っているが，より一層の指導力の向上と，授業改善に努めたい。その反面，生徒の家庭学習時間が減少している。各教科で家庭学習につながる手立てをとりたい。 習熟度別学習や少人数学習に対する満足度はやや上がった。生徒の主体性や深い学びにつながるよう，効果的な実施ができるように努めたい。 図書館利用者数，貸出冊数ともに昨年より微増した。授業での利用をさらに呼びかけ，読書への意欲喚起を促す努力を続けたい。		
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・生徒との常時面談を心がける。 ・朝の学習の時間を毎日 10 分間設定し，本校独自の「朝の学習ノート」で自学自習を行わせる。 4・5 年生は漢字検定及び英語検定合格を目標とした学習を行う。6 年生は各自の進路目標を達成のための学習を行う。 ・毎週月曜の朝，手帳（スコラノ）に週の計画を立てさせる。また，可能な範囲で授業でも活用する。 ・宿題・週末課題の提出を義務づける。 ・家庭学習時間調査を毎月行う。 ・図書館だよりや展示内容の充実を図るとともに，各教科と連携して，授業における図書館利用の機会を増やし，読書への興味関心を喚起する。 ②③・学力向上検討委員会と連携し，国・数・英・理・歴・公における学力・学習状況についての目標・方策を設定し，学習支援体制の改善に努める。	①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度 75％以上をめざす。 ・手帳（スコラノ）を活用することにより，家庭での平日学習時間平均を 10 分伸ばす。 ・漢字検定，英語検定準 2 級以上の合格者数は，受験者の 5 0％以上をめざす。 ・「朝の学習により，学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は，50％以上をめざす。 ・読書の推進に努め，年間貸出冊数 1, 800 冊以上を目指す。 ・基礎学力向上をめざして，校内課題テストの基礎分野 50 点で学年平均 25 点以上をめざす。 ②③・生徒の授業に対する満足度は，75％以上をめざす。	①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は 79.2％(前年比 5.8 ポイント減)であった。 ・朝の学習に毎日取り組むことは効果があると感じた生徒は 44.4％（前年比 3.8 ポイント増）であった。 ・平日の家庭学習時間は 4 年次生は 1 時間 20 分，5 年次生は 1 時間 11 分，6 年次生は 1 時間 47 分(前年比 4 年次生 9 分減，5 年次生 21 分減，6 年次生 1 分減)であった。 ・漢字検定準 2 級以上の合格者は 24 名(合格率 32.9%)英語検定準 2 級以上の合格者は 20 人(合格率 38.5％)であった。 ・年間入館者数は 7,948 人（1 月末現在）で，昨年より微増した。図書貸出冊数も 2,084 冊（1 月末）で，前年より 670 冊増加した。 ・課題テスト基礎分野の平均点は 25 点に近づいた。（4 年 26.7 点，5 年 25.3 点，6 年 24.1 点） ②③・授業に対する生徒の満足度は 85.0％（前年比同程度）であった。 ・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒の満足度は 68.0％(前年比 3 ポイント増)であった。			

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（3）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現	① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。 ② 三者面談・年次 P T A などにより保護者 との連携強化に努める。	評価指標		評価指標の達成度		評価指標の達成度	○ 進路意識を高めるための行事への生徒の積極性や満足度は昨年度並みであるが、補習や模試等へ積極的に取り組む生徒が昨年よりも減少している。5 年生の応用クラスが 1 クラスになり、その必要性を感じる生徒が減少したのではないか。早期から生徒自身に自己分析や進路調べを行わせるとともに、生徒の学習意欲を向上させ、基礎学力をつけるためのサポートを教科主導で積極的に進めたい。 ○ 進路指導や個別面談に対して、保護者の満足度は昨年度よりもポイントを上げ、評価指標の目標に達した。次年度も進路意識を高める行事を計画的に実施し内容の充実をはかりたい。 ○ P T A 総会や年次 P T A の参加率を高め教育活動や進路指導等に対する保護者の理解促進を図るために生徒を通じて家庭との連携・連絡を密に取れるような工夫をしたい。
		① ・補習、校内課題テスト、模試等 に積極的に取り組む生徒の割合は、70 % 以上をめざし、保護者の満足度は、80 % 以上をめざす。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに 75 % 以上をめざす。		① ・補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は 64.0 %（前年比 3.4 ポイント減）、保護者の満足度は 91.4 %（前年比 5.5 ポイント増）であった。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度については、生徒は 76.2 %（前年比 0.5 ポイント増）、保護者は 76.2 %（前年比 1.9 ポイント増）であった。		〈評定〉 B ----- 〈所見〉 補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組む生徒が昨年よりも減少し、65 % 以下となった。 進路意識を高める行事や講座に対する満足度は例年通り 75%を超えた。特に小論文講演会は、ホワイトボードを活用するとともに各年次ごとに実施し、生徒と教員に好評であった。	
		② ・個別面談に対する保護者の満足度は、85 % 以上をめざす。 ・進路指導に対する保護者の満足度は、75 % 以上をめざす。		② ・個別面談に対する保護者の満足度は 88.6 %（前年比 6.8 ポイント増）であった。 ・進路指導に関する保護者の満足度の各項目を平均すると 84.8 % でありおおむね好評であった。		進路意識を高める行事や講座に対する満足度は例年通り 75%を超えた。特に小論文講演会は、ホワイトボードを活用するとともに各年次ごとに実施し、生徒と教員に好評であった。	
		活動計画		活動計画の実施状況		個別面談に対する保護者の満足度は 88.6 %，進路指導に対する保護者の満足度の平均は 84.8 %，おおむね好評で今後も工夫を続けたい。	
		① ・進路実現のために補習、課題テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝学」「総合的な学習の時間」「土曜日補習」など様々な学習支援を行い、学力や小論文力養成を図る。 ・4 年生に対し「職業人講演会」、5 年生に対し「アカデミックレクチャー」、6 年生に対し「進路ガイダンス」を実施する。 ・小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各 1 回以上実施する。 ・6 年生の就職生集会を年 8 回、5 年生の就職・公務員説明会を年 1 回実施する。		① ・補習、課題テスト、模試を計画通り実施した。 ・「サタデーサポート（土曜日補習）」、「サマーチャレンジ（学習合宿）」の学習支援策を定着させ、内容の充実をはかった。 ・4 年次生の「キャリアレクチャー」、5 年次生の「アカデミックレクチャー」、6 年次生の「進路ガイダンス」を予定通り実施した。 ・小論文模試を各年次ともに 1 回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。 ・小論文講演会を各年次ともに 1 回ずつ実施した。進路講演会は各年次 1 ～ 3 回実施した。進学座談会（卒業生を囲んで）も実施できた。 ・6 年生の就職生集会を年 8 回、5 年生の就職・公務員説明会を年 1 回実施し、公務員希望の生徒には校外模試を実施して実力の判定と進路指導に役立てた。			
		② ・夏季休業中、冬季休業中、大学入試センター試験後などに、三者面談を実施する。 ・年次 P T A を年 2 回（6・10 月）実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。 ・P T A 大学視察を年 1 回実施する。		② ・夏季休業中は生徒全員を対象に、また三者面談は冬季休業中及び大学入試出願前などに随時実施し、保護者との連携強化に努めた。 ・P T A 総会や年次 P T A においてクラス懇談及び保護者面談を実施した。10 月の年次 P T A では保護者対象の進路講演会も実施した。 ・P T A 大学視察を大阪方面で計画したが、希望者少なく実施できなかった。			○ P T A 大学視察は参加希望者少なく実施できなかった。次年度は実施できるよう呼びかける。

令和元年度		徳島県立川島高等学校		学校評価についての総括評価表（４）			
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評	価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	評価指標		評価指標の達成度	総合評価	○ 基本的生活習慣の確立に向けては、集会等の全体指導はもとより、ここの取組課題を明確化した上で個別指導や地道で粘り強い個別指導も肝要である。 ○ いじめ等の早期発見と早期対応をするためにも、積極的な情報収集とスクールカウンセラーの来校日以外の日においても相談に応えられる即応体制の拡充に努めて欲しい。 ○ 自ら健康管理できる生徒の育成のため、日常的に指導することも大切である。その面でも中高連携シートの活用を期待する。そして、外部団体の協力を得て、充実した交通安全教室やスマホ教室、生活習慣改善プロジェクトなども継続して欲しい。 ○ 校内に悩みを相談できる友達や先生がいると回答した人が多いことが本当に嬉しい。この環境をこれからも保っていたきたい。 ○ 校則の遵守等で様々な意見はあるが、学業に組む環境づくりや社会的ルールを身につけるためには、生徒自らが考えて問題行動を防ぐ取り組みとともに、ルールを守る指導は必要である。	○ 授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導や生活安全指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれが連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。 ○ 保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。 ○ 健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。中高連携シートを活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。 ○ 交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。
					〈評定〉 B 〈所見〉 9割近くの生徒は基本的生活習慣、社会のルールの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。 服装頭髪等の継続的指導を要する生徒はごく一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できており全体的に安定している。しかし、ネクタイ等の着こなし、女子のスカート丈や男子の柄物靴下や奇抜な髪型などの一部生徒の違反に対しては、継続しての指導が必要である。 友達や先生等校内に悩み事を相談できる生徒の割合、及び迅速で丁寧な相談体制を評価する保護者指数は75%を超えた。今後も個に応じた組織的な取り組みを継続していきたい。 適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。90%以上の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。		
		活動計画		活動計画の実施状況			
		① ・ 全校集会、指導週間を月1回実施し、基本的生活習慣の確立を中心とした生徒指導の徹底・充実に努める。 ・ 学校評価アンケートにおける、生徒の達成度は、80 %以上をめざす。 ② ・ 学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80 %以上をめざす。		① ・ 年間で全校集会を7回、指導週間を11回実施した。 ・ 基本的生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は91.4 %、保護者は82.4 %、教職員は87.9 %であった。始業チャイムを守る等前向きな態度で授業に取り組んでいることに関する肯定的意見は、生徒は92.6 %、教職員は94.0 %であった。子どもは校則やきまりを守り前向きな態度で学校生活を送っていることに関する保護者の肯定的意見は94.6 %であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか（適切な指導が行われているか）に関する肯定的意見は、生徒は94.5 %、保護者は90.1 %、教職員は90.9 %であった。 ② ・ 学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定的意見は87.8 %であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は81.4 %であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は82.3 %、教職員は87.9 %であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は90.2 %、保護者は87.1 %、教職員は100 %であった。			
		① ・ ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等のあらゆる機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。 ② ・ 授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。 ・ 長期休業中の校外巡視等、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。 ・ 交通講話、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室（4年生対象）、健康教育講演会（4年生対象）を年1回以上実施する。 ・ カウンセリングの体制を充実させ、丁寧な支援を行う。		① ・ 全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて3日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。 ② ・ 「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて学業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。 ・ 校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。 ・ 各種講演会を実施した。 ◇阿波吉野川警察署交通課より講師を招いて交通安全講話を実施した(7/18)。 ◇原付通学生に対して、阿波高校と合同で原付車安全運転講習会を実施した(7/17)。 ◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として徳島県警察本部サイバー犯罪対策室から講師を招いて非行防止教室「スマホ・ケータイ安全教室」を実施した(12/20)。 ◇阿波吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して、薬物乱用防止教室を実施した(5/8)。 ・ 4年生に対して緊急時に備えての心肺蘇生法講習会（12/9）や夏季休業中に生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。 ・ 年に2回悩みごととアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。			

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（５）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(5)人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	① 人権教育指導計画の推進と“あわ”人権学習ハンドブックの活用により人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。	評価指標		評価指標の達成度	総合評価	○人権学習ホームルーム活動年間指導計画に沿って展開できたこと、生徒の自己評価表を適切に活用していること、「人権の日」を中高が連携して同じ人権課題について共に学ぶ機会としていることを高く評価する。 ○「人権の日」や「人権新聞」の発行、鴨島支援学校との交流等これから続けていって欲しい。今後も6年間を通じた人権教育に取り組んで欲しい。 ○今も全国的に「いじめ」が大きな社会問題であるので、人権問題からも、いじめをしない、許さないと生徒が主体的に行動すると共に、保護者・教職員で生徒を支える活動を今後も継続できるように期待している。 ○相手を尊敬し合えるような関係を築いていけるように、相手の意見を聞き入れたり、良い所等を見つけられるような活動をして欲しい。	○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。 ○評価指標としている、生徒、保護者の意見において、「ある程度思う」から「そう思う」の割合が増加するような取り組みを目指していく。 ○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。また、自己評価票の活用をさらに徹底し、反省点を生かせるよう努力する。 ○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。 ○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権、最近の人権問題等について考え、様々なテーマとなるような内容を工夫する。中学校への放送や中学生の放送担当も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導をより一層工夫していく。
		①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80 %以上をめざす。		①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(27.9 %)と「ある程度そう思う」(54.4 %)を合わせると82.3 % (昨年比 1.7 ポイント増) となり、目標を達成することができた。	〈評定〉 B		
		②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、85 %以上をめざす。 ・「人権を大切にする教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、85 %以上をめざす。		②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(31.3 %)と「ある程度そう思う」(53.2 %)を合わせると84.5 % (昨年比 1.2 ポイント減) であり目標をほぼ達成することができた。 ・人権を大切にする教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(21.3 %)と「ある程度そう思う」(64.5 %)と合わせると85.8 % (昨年比 1.6 ポイント増) となり、目標を達成することができた。	〈所見〉 人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。 鴨島支援学校との交流は、6月の鴨島支援学校の運動会、11月の鴨島支援学校の学校祭で交流を行った。参加した生徒は和気あいあいと競技の補助に務めていた。また、10月の「ふれあい交流作品展」には本校生徒の作品も展示し交流の輪を広めた。9月の本校学校祭での交流は本年度も実施できなかった。 講演会は、生徒にとって身近なテーマであるとともに、体験的な活動が中心で、わかりやすく概ね好評であった。 今年度で12年目である「人権の日」の放送は、朝の学習時間を利用し各ホームルームの人権委員が意欲的に取り組み充実していた。様々な「個別的な視点」や「道徳的内容」を取り上げ「知る」ことの大切さや身近な人権について考えを深めることができた。		
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。 ・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。 ・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」や「性の多様性」についても教材化に努め、「人権の日」の放送等でも積極的に取り入れる。 ・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し指導内容の改善に努める。 ②・支援学校との交流への積極的な参加を促し人権意識の高揚を図る。 ・人権新聞の編集に人権委員を積極的に活動させ、内容の充実を図り、年3回発行する。 ・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。 ・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し活動が活性化するように指導する。 ・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。 ・道徳教育の観点からも生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。		①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。 ・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えてできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。 ・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。 ②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。 ・鴨島支援学校運動会や学校祭に参加し交流を深めることで、人権意識の高揚を図った。 ・デートDV防止プログラムファシリテーターの阿部和代さん、山橋潔子さんをお迎えし、デートDV（ドメスティックバイオレンス）についての講演会をおこなった。日常的な交際の中で、DVに発展する恐れのある事象を、映像やロールプレイングで視聴・体験し、デートDVの定義、その危険性、防止するためのコミュニケーションの在り方などを学習した。体験的な学習が中心となることで、生徒にとっても主体的に参加でき、理解もしやすい講演会であった。 ・毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。取りあげるテーマについては、「道徳」に関する話題や「性的マイノリティ」「結婚差別」等も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、中学校での人権学習、平和学習の内容について紹介するなど、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。学級において人権委員がリーダーシップを発揮する機会も増えてきた。			

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（6）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	① 学校行事，生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ② ホームルーム活動や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○生徒会役員会や各種委員会を開催し，ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。 ○生徒会活動がより積極的に行えるよう，各種委員会の開催や行事内容の精選を図る。また，アンケート調査を実施し，生徒の意見を積極的に取りあげるようにする。 ○生徒主体の活動が行えるよう特別活動課員と生徒会役員との連絡を密にし学校行事等の事前準備を十分ににする。 ○特別活動を通じて普段から将来について考えていけるようサポートする。 ○中高一貫校としての特色を活かす部活動の在り方を考える。
		① ・通学路の一斉清掃を年間で2回実施する。 ・川島中高祭，球技大会など，学校行事への生徒の満足度を85%以上にする。 ・生徒の主体性を促し，学校行事や生徒会活動に積極的に参加するよう適切な指導を行う。		① ・通学路の清掃に関しては，年間を通して1度も実施できなかった。 ・川島中高祭など学校行事に対する生徒の満足度が，「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせて81.1%（保護者は90.0%）と昨年に比べて数字は生徒，保護者とも高くなったが生徒は目標の85%を達成できなかった。生徒の満足度を上げられるようアンケート調査に耳を傾けより良い学校行事にしていきたい。 ・文化祭一般公開も5年目を迎え，充実した学校祭となっている。		〈評定〉 B	
		② ・中央委員会を開催する。 ・部活動の入部率90%以上をめざす。 ・部活動委員会を年2回開催する。		② ・部活動の入部率は105%（男子91%，女子116%）と目標を達成できた。 ・部活動委員会を年2回開催し，部活動の活性化等について話し合うことができた。		〈所見〉 本年度の学校行事の良かった点，反省点を精査し，来年度に向けてより充実したものにしていきたい。 部活動の入部率は目標を達成した。複数の部活動に入部している生徒もあり，積極的に部活動に参加していることがうかがえる。来年度は部活動の内容をより充実したものにした。さらには中高一貫校としての特色を活かす部活動運営を模索したい。	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		① ・生徒会や各種委員会が連携し，通学路や校内の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。 ・川島中高祭への積極的参加を促し，意識の高揚を図る。また，生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。 ② ・部活動への積極的な参加を促す。また，部員同士で十分に話し合いをさせ，年間活動方針を明確にさせる。 ・部活動委員会を通して，部活動間で連携を深めるとともに，問題点を抽出し話し合う。		① ・今年度は通学路の清掃や美化活動を積極的に取り組むことができなかった。 ・生徒会では役員を中心に，前日祭の計画や文化祭での企画，実施，球技大会の運営，あいさつ運動など活発に行う事ができた。また，学校行事において，生徒会を中心に学校行事の内容を精選，変革する活動がより進んでいる。 ② ・日頃の在校生の頑張りが，新入生部員の積極的な入部につながった。高校1年生の入部率は，103%（兼部者を含む）と高いものとなった。部活動に多くの生徒が参加し，学校の活性化につなげることができた。 ・部活動委員会を通して，各部活動間で連携を深めると共に，中高一貫校の特色を活かす部活動の実施について話し合った。			

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（7）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	①「新学校版環境 I S O」に取り組むなど環境保全活動に努める。 ②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○「新学校版環境 I S O」告知板を設置して、目標や行動計画，取組の状況等を可視化して、環境保全活動への参画を呼びかけていることを高く評価する。 ○目標指標を達成できている，環境問題や国際理解を身近なものと感じることができるよう，生徒会等，生徒の皆さんが自主的に積極的に参加できるような活動に期待する。 ○オーストラリアの高校生との交流を，異文化理解のための機会にとどめることなく，コミュニケーションスキルとしての英語力向上への意欲喚起につなげて欲しい。
		①・「『新学校版環境 I S O』」に取り組み，清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合は，80 %以上をめざす。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は，80 %以上をめざす。		①・「清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は 81.6 % (前年度より 1.8 ポイント増加)であり，評価指標を達成することができた。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答した生徒の割合は 84.7% (前年度より 0.1 ポイント増加) であり，評価指標を達成することができた。		〈評定〉 〔環境教育〕 B ----- 〔国際理解教育〕 A ----- 〈所見〉 『新学校版環境 I S O』の認定を受けて，生徒会・美化委員会を中心とした様々な取り組みが定着してきている。「レッツクリーン」環境美化活動に参加した生徒は，充実感や達成感を感じており，環境美化・環境保全への意識向上につながることができた。	
		②・オーストラリアの高校との交流を通して他国の文化を受け入れ，また自国の文化にも目を向ける姿勢を養う。 ・国際交流を目的とした研修やプログラムの参加を促す。		②・オーストラリアの高校生 12 名引率教員 2 名を受け入れホームステイや学校での交流行事，授業体験を通して交流を深めた。 ・外国人と交流する体験活動を通して，英語のコミュニケーション力を伸ばす「徳島グローバルキャンプ」に 7 名が参加した。 ・徳島の魅力を発信できるとともに，被災時にも通訳補助的役割を果たせる人材の育成を目指した「高校生 AWA スペシャル体験サポーター」養成講座に 1 名参加した。		昨年は国際交流プログラムに参加した生徒は 2 名であったが今年は 8 名に増えた。オーストラリアの生徒との交流を通して海外の文化に興味を持つと共に，日本の文化にも目を向け発信しようとする姿勢が見られるようになった。	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・『新学校版環境 I S O』告知板を掲示し，活動内容の広報に努める。 ・各クラスの日直に「節電・節水，ゴミ処理，環境美化への取組」を E c o D i a r y に記録させ，意識の高揚を図る。 ・各クラスにゴミ箱 3 種類と「古紙回収箱」を設置し，ゴミ分別とゴミの減量化を呼びかける。 ・「レッツ・クリーン」環境美化活動を委員会・生徒会の活動にとどめず，4 年次生全体を巻き込んだ活動に広げる。 ・美化委員と生徒会が協力して，『新学校版環境 I S O』の告知板，節電・節水・ゴミ分別ポスターの掲示やラベルの張り替えを行う。		①・『新学校版環境 I S O』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。 ・電気や水道の使用量のグラフ掲示し，美化委員から節電・節水の協力をお願いかけた。 ・ゴミの分別や古紙回収を行い，ゴミの減量に全員で取り組んだ。 ・春に 4 年次生全体で通学路や駅，学校周辺の環境美化運動「レッツクリーン」を実施し，秋には，美化委員と生徒会を中心とした 2 回目の環境美化活動を実施した。 ・川島中高祭では，来校された方々にもゴミの分別やリサイクルの協力を促す分別ゴミ箱を美化委員で作成し，設置した。			
		②・オーストラリアの高校生徒の交流行事や校外の国際理解プログラムへの参加を積極的に促し，参加に向けた適切な指導を行なう。		②・オーストラリアの高校生の受け入れを経験した事についてその体験を HR や英語の時間に語る事で，他の生徒達にとっても異文化理解を深める良い機会になった。 ・各種国際交流行事に参加した。また，10 月には徳島県英作文コンテストに参加し英語の発信力を伸ばした。			

令和元年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（８）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価			学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	① 地域貢献活動等の活性化や，ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り，家庭や地域の連携を深め，外部評価結果を生かす取組を促進する。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め，地域防災を担う人材を育成する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○ボランティア活動への参加の機会を通して，地域社会に貢献できる喜びや自己有用感を感じ取り，主体的に取り組もうとする生徒を育てて欲しい。 ○被災時，高校生は地域社会の住民避難や被災者支援等に主体的，精力的に活動する存在となることが期待されている。何ができるかを考える機会を組み入れて欲しい。 ○ホームページの充実について，生徒の興味が高い部活動の早期更新を希望されるが，本人の了解なども含め，発信承認までの流れは大切にしたい。 ○学校ホームページの充実も必要であるが，先生方の負担にならないように工夫することも必要。 ○「開かれた学校」として，地域の市や自治会と協力して取り組むことは，今後も継続をお願いしたい。	○ホームページについては，担当者が更新状況を確認し，個別に更新をお願いすることによって，評価指標の達成に努める。 ○防災クラブとしての校内活動に加え，全校生徒が防災意識を高めることのできる学校行事などをさらに改善して，一人でも多く，リーダーシップを発揮できる人材を育てていきたい。また，教職員も学校行事などを通して，災害時の役割を日頃から意識するようにしていきたい。
		① ・ボランティア活動を通じて感動や喜び，達成感などを習得し，心豊かな生徒の育成をめざす。 ・「ホームページが充実しており，学校の活動状況を理解するのに役立っている」と思う割合は，生徒・保護者とも 70 %以上をめざす。		① ・地域の美化活動やイベントの運営協力を行うことにより，生徒は十分な達成感を得るとともに，地域に貢献できる生徒の育成を推進できた。 ・ホームページが充実しており，学校の活動状況を理解するのに役立っていると思う割合は，生徒は 60.5 % (前年比 9.4 ポイント増)，保護者は 65.0 % (前年比 10 ポイント減)となり，生徒の評価指標は増加したが，生徒・保護者とも目標達成はできなかった。		〈評定〉 B		
		② ・防災・減災の意識が向上したと実感できる生徒の割合を 8 0 %以上にする。		② ・防災訓練・教育に関する満足度は約 90%で，防災訓練当日も，生徒たちの自主的で活発な活動の様子が見受けられ，自助・共助の意識や行動力の高まりを感じた。		〈所見〉 ホームページについては，学校行事の様子を実施後速やかに発信できたが，生徒の興味が高い部活動の結果などがあまり更新できていない。そのため，生徒の肯定的な意見が評価指標に達しなかったと思われる。 防災クラブの生徒だけでなく，全校生徒が様々な防災活動を通して，必要な知識や経験を積み重ねることができた。防災・減災の技術や意識の向上がしっかり得られた生徒も多く見られた。		
		活動計画		活動計画の実施状況				
		① ・吉野川市「レッツ・クリーン」に参加し環境美化を推進する。 ・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。 ・ホームページ更新方法の講習会等を開き，掲載情報の拡充に重点を置き，最新情報の掲載や項目の追加を適時効果的に行う。 ② ・より実践的で生徒らが主体的にできる防災訓練・避難訓練を実施する。 ・地域の防災訓練への参加呼びかけを行う。 ・防災クラブによる積極的な防災活動を学校行事などを通して実施する		① ・各種ボランティアに積極的に参加させることにより，地域との連携を深めることができた。 ・ホームページの更新方法の講習会を開くことができた。学校行事の様子を実施後速やかに発信した。 ② ・防災訓練では，毎年その内容を変更している。今年度も，工夫してより実践的なものに改善し実施した。 ・防災クラブの活動としては，学校行事だけでなく，地域の防災訓練など，積極的に参加した。主体的に行動できる人材を，育成することに貢献できた。				